



地域医会だより

県央皮膚科医の会

平成27年は県央皮膚科医の会の講演会を1回と、県央地域の中の大和市で1回の講演会を、そして第147回の例会を大和市皮膚科医会の共催で開催いたしました。

●第9回県央皮膚科医の会

日 時：平成27年10月15日（木）

会 場：オークラフロンティアホテル海老名

テーマ：「急性蕁麻疹に対する治療戦略」

講 師：北里大学医学部皮膚科講師 安藝良一先生

テーマ：「皮膚外科手術あれこれ」～悪性腫瘍を中心に～

講 師：埼玉医科大学総合医療センター皮膚科講師 須山孝雪先生

●第147回例会（第7回大和市皮膚科医会例会）

日 時：平成27年3月1日（日）

会 場：関内新井ホール

テーマ：「金属アレルギー」（当番幹事：矢口 厚）

ミニレクチャー：「どれが白癬・これも白癬？」—治療法の選択は—

講 師：帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科教授 清 佳浩先生

講演1：「金属接触アレルギーと全身型金属アレルギー」—食品中の微量金属の関与について—

講 師：兵庫県立加古川医療センター皮膚科部長 足立厚子先生

講演2：「皮膚科医として知っておきたい、歯科金属アレルギーの現状と対応法について」

講 師：東京医科歯科大学歯学部附属病院歯科アレルギー外来臨床教授／松村歯科医院 松村光明先生

●第8回大和市皮膚科医会

日 時：平成27年11月14日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「乾癬の治療“光と影”」

講 師：北里大学医学部皮膚科学講師 前島英樹先生

（文責：矢口 厚）

横浜市皮膚科医会

8年間にわたる毛利忍会長に代わり、平成28年4月2日より増田智栄子会長による新体制が発足しました。

【平成27年度の事業報告】

①例会について

・第140回例会

日 時：平成27年4月4日（土）

会 場：関内新井ホール

共 催：バイエル薬品株式会社

教育講演：「分子標的薬による皮膚障害のマネージメントの方向性について」

講 師：横浜市立市民病院皮膚科部長 堀内義仁先生

特別講演：「皮膚腫瘍と円形脱毛症の治療と毛包幹細胞からの基礎研究について」

講 師：北里大学医学部皮膚科学教授 天羽康之先生

参 加 者：43名

・第141回例会／神奈川県皮膚科医会第148回例会

日 時：平成27年7月5日（日）

会 場：関内新井ホール

テ ー マ：「水疱症」（当番幹事：畑 康樹先生）

ミニレクチャー：「痤瘡の最新治療 ～外用薬の使い分けのコツ～」

講 師：野村皮膚科医院 野村有子先生

講 演 1：「自己免疫性水疱症を見逃さないために」—プロでも難しい表在性皮膚感染症との鑑別—

講 師：慶應義塾大学皮膚科専任講師 山上 淳先生

講 演 2：「水疱症update：症例から見えてきた最近の知見」

講 師：北海道大学皮膚科講師 西江 渉先生

参 加 者：168名

・第142回例会

日 時：平成27年10月15日（木）

会 場：関内新井ホール

共 催：鳥居薬品株式会社

特別講演：「日常診療における軟部腫瘍診断のこつ」

症例解説：「軟部腫瘍の症例提示ならびに症例についての解説」

講 師：国立がん研究センター中央病院骨軟骨腫瘍科希少がんセンター 森 智章先生

参 加 者：49名

②横浜市皮膚科医会主催の講演会について

・学術講演会

日 時：平成27年4月23日（木）

会 場：横浜ベイホテル東急

共 催：株式会社ポーラファルマ

テーマ：「難治性皮膚潰瘍にどう対処するか？」

講 師：福井大学医学部感覚運動医学講座皮膚科教授 長谷川 稔先生

参加者：58名

・学術講演会

日 時：平成27年11月11日（水）

会 場：崎陽軒本店

共 催：佐藤製薬株式会社

テーマ：「接触皮膚炎診療のコツ パッチテストを活用しよう」

講 師：埼玉県済生会川口総合病院皮膚科主任部長 高山かおる先生

参加者：48名

③第7回市民公開講座について

日 時：平成28年3月13日（日）

会 場：情文ホール

共 催：株式会社ポーラファルマ

テーマ：「もうニキビで悩まないで」～正しい知識とスキンケア～

講 師：野村皮膚科医院 野村有子先生

参加者：61名

④横浜市医師会関係事業について

・tvk「健康最前線」「ありがとッ」

日 時：平成27年10月16日（金）、23日（金）

テーマ：「フットケア」

担 当：JCHO横浜中央病院皮膚科 羽尾貴子先生

・横浜市医師会「医学シリーズ第32集」（テーマ：在宅医療）

テ ー マ：「褥瘡の予防とその処置」

執筆担当：袋 秀平先生

・第23回横浜臨床医学会学術集談会

日 時：平成27年12月12日（土）

会 場：崎陽軒本店 6 階

テーマ：「分子標的薬の皮膚科の副作用」

講 師：前横浜市立市民病院皮膚科部長 毛利 忍先生

⑤物故会員

三木信夫先生

小森爲郎先生

⑥表彰

・平成27年10月9日（金） 鎌田英明先生

社会保険診療報酬支払基金関係功績者厚生労働大臣表彰受賞

・平成27年11月23日（月） 宮本秀明先生

神奈川県医師会学術功労者表彰・菊池記念メダル表彰受賞

（文責：渡邊知雄）



地域医会だより

鎌倉市皮膚科医会

今年度の活動はありません。

(文責：原 尚道)



地域医会だより

藤沢市皮膚科医会

【活動概要】

日 時：平成27年 3月18日（水）19時30分～

会 場：湘南クリスタルホテル5階「ボンヌ・チャンス」

テーマ：「帯状疱疹関連痛：病態に応じた治療」

講 師：順天堂大学医学部麻酔科学・ペインクリニック講座教授 井関雅子先生

日 時：平成27年 7月22日（水）19時30分～

会 場：湘南クリスタルホテル

テーマ：「食物アレルギーにおけるパラダイムシフト —抗アレルギー薬の使用を含めて—」

講 師：神奈川県立こども医療センターアレルギー科 栗原和幸先生

日 時：平成27年11月25日（水）19時30分～

会 場：湘南クリスタルホテル

テーマ：「最新のご瘡治療」

講 師：虎の門病院皮膚科部長 林 伸和先生

(文責：小林誠一郎)



地域医会だより

川崎市皮膚科医会

【川崎市皮膚科医会第13回定時総会・第20回川崎市皮膚科医会例会学術講演会】

平成27年10月7日（水）にホテル精養軒（武蔵小杉）にて、第13回川崎市皮膚科医会定時総会・第20回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。

総会は望月明子会長の挨拶の後、石橋正史先生（日本鋼管病院皮膚科部長）が議長として選出され、第1号議案「平成26年度会務報告に関する件」以降、第5号議案「役員人事に関する件」まで円滑に承認され無事終了しました。

講演会は清佳浩先生（帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科教授）の座長で下記のご講演をいただきました。



佐伯先生（中央）を囲んで

第20回川崎市皮膚科医会例会学術講演会

テーマ：「アトピー性皮膚炎に関する最近の話題」

講師：日本医科大学附属病院皮膚科教授 佐伯秀久先生

佐伯先生のお人柄がにじみ出る、とてもわかり易い講演でした。

（文責：井上奈津彦）



地域医会だより

三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会

【第47回三浦半島皮膚科懇話会・第30回横須賀市医師会皮膚科部会学術講演会】

日時：平成28年2月6日（土）17時45分～

会場：メルキュールホテル横須賀4階「ベルサイユ」

製品説明：「プロトピック軟膏」マルホ株式会社

特別講演：「アトピー性皮膚炎治療 up to date」

講師：東京通信病院副院長兼皮膚科部長 江藤隆史先生

座長：金丸皮膚科 金丸哲山先生

カリキュラムコード：9（医療情報）・26（発疹）

共催：三浦半島皮膚科懇話会、横須賀市医師会皮膚科部会、横須賀市医師会、マルホ株式会社

【講演抄録】

「アトピー性皮膚炎治療 up to date」

東京通信病院副院長兼皮膚科部長 江藤隆史

アトピー性皮膚炎（AD）診療ガイドライン（GL）の普及によって、かつて数多く見られた「赤鬼様顔貌」の成人AD患者は、ずいぶん少なくなってきました。それでも、アレルギー友の会などの活動や、東京都のアレルギー対策講習会などでは、まだ「脱ステロイド」の信仰を捨てきれず、社会的な活動ができずに引きこもっている患者さんがたくさん存在することが実感されます。私が、毎週開催している「AD教室」参加者の多くは、最近では脱ステロイド派の患者さんはかなり減ってきましたが、GLが推奨するFTUの外用量が順守できず、腰の引けた外用指導がなされて悪化してしまっているケースがほとんどを占めます。

ここでは、外用療法指導の基本と工夫を概説し、当院薬剤部大谷副部長がコツコツと発表してきている外用療法における数少ないエビデンスを紹介してみます。GLも昨年改訂の作業がなされ、近年発表されたエビデンスに基づき、新たな内容が盛り込まれてきています。たとえば、「最近の疫学研究から、母体の妊娠中や授乳中の食事制限が有効であるとのエビデンスはないことが明らかになった」など、これまでしっかりしたエビデンスなく信じられてきた常識が偽りであることが示されてきています。その辺の内容も盛り込みながらAD治療up to dateをお話します。 (文責：金丸哲山)



○ ○ ○ ○ ○

地域医会だより

小田原皮膚科医会

【小田原医師会・足柄上医師会合同学術講演会】

日 時：平成27年9月17日（木）

場 所：おだわら総合医療福祉会館

テーマ：「目からうろこの疥癬事情 ～新たな疥癬診療の夜明け～」

講 師：国立感染症研究所ハンセン病研究センターセンター長 石井則久先生

座 長：日下部皮膚科医院院長 日下部芳志先生

参加者：18名

天候が悪く9月にしては肌寒い1日で、残念なことに当日キャンセルの先生が多数おられました。やはり参加された先生方の一番の疑問は、どの段階で治癒とみなし治療を終了するか、登園・登校・仕事復帰をいつ許可するかでした。

本年度の学術講演会は9月15日（木）で、順天堂大学医学部皮膚科学講座教授の池田志孝先生に、アトピー性皮膚炎に関するご講演をしていただく予定であります。 (文責：相川洋介)



地域医会だより

茅ヶ崎医師会皮膚科部会

【症例検討会】

日 時：平成27年7月7日（火）
会 場：茅ヶ崎市立病院皮膚科外来
講 師：茅ヶ崎市立病院皮膚科部長 池澤優子先生

【講演会】

日 時：平成27年10月23日（金）
会 場：茅ヶ崎市勤労市民会館3階B研修室
テーマ：「食物アレルギーの最近のトピックス ～花粉症や経皮感作との関連を交えて～」
講 師：横須賀市立うわまち病院皮膚科部長 松倉節子先生

（文責：小野秀貴）



地域医会だより

平塚市医師会皮膚科部会

【第68回例会】

日 時：平成27年5月20日（水）
会 場：平塚プレジール
テーマ：「アトピー性皮膚炎 予防への挑戦」
司 会：平塚市民病院皮膚科 木花いづみ先生
1. 製品紹介「尋常性ざ瘡治療配合剤デュアックについて」
2. 総会
3. 特別講演

講 師：慶應義塾大学病院小児科 森田久美子先生

【講演要旨】

アトピー性皮膚炎（以下AD）は乳児期に発症することが多く、アレルギーマーチの根幹に位置することから、乳児期にいかに発症を抑制するかが重要である。発症予防に関しては、これまでも抗原除去など様々な取り組みが行われてきたが、予防方法として確立された方法はない。

一方、ADの病態解明が進み発症に皮膚バリア機能の低下が関与している疑いが強くなったため、保湿剤で皮膚バリアを補強することでADの発症を防げるのではと考えられるようになった。

そんな中、保湿剤のAD発症予防効果を検証すべく日本と英米でランダム化比較試験が実施され、新生児期からの全身への保湿剤塗布により国立成育医療研究センターでは30%程度、英米の合同チームでは50%近くAD発症を抑制することができた。今後、塗布を継続すべき期間、長期的予後などについて、さらなる研究が必要である。

4. 情報交換会

出席者：40名

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、グラクソ・スミスクライン株式会社

【第69回例会】

日 時：平成27年9月30日（水）

会 場：グランドホテル神奈中平塚

テーマ：「帯状疱疹の最新情報 —診断・治療・ワクチン予防—」

司 会：平塚共済病院皮膚科 前田修子

1. 製品紹介「抗ヘルペスウイルス治療剤 ファムビル錠250mg」

2. 特別講演

講 師：愛知医科大学皮膚科教授 渡邊大輔先生

【講演要旨】

本邦では今後、帯状疱疹患者数の増加が予測されている。その要因として昨今の少子高齢化に加え、平成26年10月より水痘ワクチンの定期接種が始まり、水痘帯状疱疹ウイルスに暴露する機会が少なくなり追加免疫効果が減弱することが挙げられる。

本講演では帯状疱疹の診断、治療に加え、ワクチン予防に関する最新の知見を解説した。水痘ワクチン（生ワクチン）の効果は8年持続し、帯状疱疹発症を約1/2に、PHN移行を1/3にすることが認められている。また、帯状疱疹発症を97%抑制し、ワクチン接種が必要とされる免疫抑制患者にも接種可能なサブユニットワクチンについても解説し、将来のワクチン予防の展望について述べた。

3. 症例報告

「腹筋麻痺を合併した帯状疱疹」 平塚共済病院 堀田亜紗先生

4. 情報交換会

出席者：39名

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、マルホ株式会社

【第70回例会】

日 時：平成28年1月20日（水）

会 場：グランドホテル神奈中平塚

テーマ：「iPS細胞などの各種幹細胞を用いた皮膚再生医療の現状と展望

—特に脂肪組織幹細胞中に存在する表皮角化細胞前駆細胞の可能性—」

司 会：湘南皮膚科 栗原誠一先生

1. 製品紹介「外用副腎皮質ホルモン剤 アンテベート0.05%」

2. 特別講演

講 師：順天堂大学大学院医学研究科皮膚科学・アレルギー学教授 アトピー疾患研究センター副所長

池田志孝先生

【講演要旨】

現在の所、大量に入手出来る幹細胞としてiPS細胞や脂肪組織由来幹細胞（ASCs）が知られている。一方、表皮角化細胞（KCs）へ分化する可能性のある細胞としては骨髄由来間葉系幹細胞やMuse細胞が挙げられる。

つまり大量に入手でき、かつKCsに分化可能な幹細胞は現存しない。そこで我々は、ASCsがKCsに分化するか否か検討した。その結果、ASCs中にKCsの前駆細胞が存在すること、KCsへの分化を誘導するとケラチン14やデスモグレイン3の発現が上昇することが判明した。今後はこれら細胞を導入して表皮水疱症などの皮膚疾患の治療を試みる。

3. 症例報告

「これは何でしょう？」 かものはし皮フ科 木花 光先生

4. 情報交換会

出席者：29名

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、鳥居薬品株式会社

(文責：前田修子)



地域医会だより

厚木市皮膚科医会

【例会】

第38回例会

日 時：平成27年6月18日（木）

会 場：レンブラントホテル厚木

特別講演：「痤瘡治療におけるBPOの位置づけ」

講 師：国家公務員共済組合連合会虎の門病院皮膚科部長 林 伸和先生

第39回例会

日 時：平成27年10月29日（木）

会 場：レンブラントホテル厚木

特別講演：「尋常性痤瘡に対する十味敗毒湯（桜皮配合）の臨床効果と作用機序」

講 師：医療法人社団智徳会志木駅前皮膚科院長 竹村 司先生

特別講演：「ダニの目線から見た、疥癬の診断と治療 ～新しい診療ガイドラインを含めて」

講 師：医療法人社団浅井皮膚科クリニック院長 浅井俊弥先生

【厚木市医療フェスティバル】

日 時：平成27年11月14日（土）

会 場：レンブラントホテル厚木

今年度は、皮膚科医会の一般向けレクチュアとして「紫外線と皮膚」で講演。

【厚木愛甲地区専門校医（相談医）事業】

委員会、FAX、メール相談に対応。講演活動に関して日皮東京支部、日臨皮学校保健委員会、日小皮の協力がある旨報告。ただ東京都と異なり、神奈川県では動きが鈍く、今後の広報活動の必要性を感じました。

(文責：小幡秀一)



地域医会だより

丹沢皮膚の会

現在、活動を休止しています。

(文責：山本 修)



地域医会だより

相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

【学術講演会】

日 時：平成27年 4月15日（水）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「爪白癬の治療 ～新たな外用療法～」

講 師：NTT東日本関東病院皮膚科部長 五十嵐敦之先生

日 時：平成27年 6月17日（水）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「皮膚リンパ腫について」

講 師：独立行政法人国立病院機構相模原病院皮膚科医長 大松華子先生

日 時：平成27年 9月17日（木）

会 場：ホテルラポール千寿閣

テーマ：「乾癬の診断と治療」

講 師：北里大学医学部皮膚科学講師 前島英樹先生

日 時：平成27年11月12日（木）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「尋常性ざ瘡治療におけるBPO製剤の位置づけ ～ニキビ治療の世界基準の夜明け～」

講 師：新宿南口皮膚科院長 乃木田俊辰先生

日 時：平成28年 2月 4日（木）

会 場：ホテルラポール千寿閣

テーマ：「日光角化症を見逃さないために」

講 師：NTT東日本関東病院皮膚科部長 五十嵐敦之先生

【その他】

北里大学皮膚科学教室の御厚意にて、平成27年7月16日（木）北里臨床皮膚フォーラム特別講演会（テーマ「全身性疾患としての乾癬治療は大きく変わる」 講師：山口大学皮膚科学分野教授 武藤雅彦先生）。平成27年11月7日（土）相模原皮膚科学セミナー（テーマ「口腔粘膜病変からわかる全身疾患」 講師：北里大学名誉教授 西山茂夫先生）。平成28年3月3日（木）第17回北里臨床皮膚フォーラムに参加させていただきました。

（文責：大木 和）

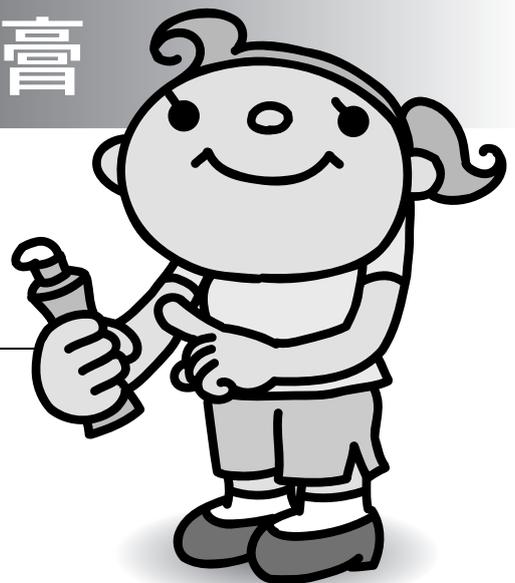
薬価基準収載

グリテール含有副腎皮質ホルモン剤

グリメサゾン[®]軟膏

GLYMESASON[®]

※効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。



製造販売元（資料請求先）

藤永製薬株式会社

東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル



Daiichi-Sankyo

販売元

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1